

令和 5（2023）年度第 2 回栃木県ケアラー支援推進協議会（2023 年 9 月 4 日）
「当事者の意見」

栃木県心身障害児者親の会連合会 会長 小島 幸子
（一般社団法人栃木県手をつなぐ育成会会長）

1, 栃木県心身障害児者親の会連合会の構成団体（6 団体）

- ・（一社）栃木県手をつなぐ育成会
- ・栃木県特別支援教育手をつなぐ親の会
- ・栃木県肢体不自由児者父母の会連合会
- ・栃木県重症心身障害児（者）を守る会
- ・栃木県自閉症協会
- ・日本ダウン症協会栃木支部

2, 主な事業

- ・栃木県民福祉のつどいや障害者文化祭（カルフルとちぎ）の開催
- ・レクリエーション・社会生活トレーニング事業（県委託事業）の実施
- ・障害者スポーツ選手等育成・育成強化（県補助事業）の実施
- ・各種の心身障害児者福祉施策事業に積極的に協力する

3, 小島の個人的な意見

- ・障害児の子育ては、どうしても母親に偏りがちになり、その結果（理由は人それぞれですが）離婚をする人も少なくはありません。子育ての大変さ（育てにくさ）と経済的な負担の両方が課題となります。子どもや家族のことが最優先で、身も心も壊してしまう母親も多いです。両親揃っていても共働きの家庭が増えています。放課後等デイサービスが充実していても、障害のある子どもは持病の定期通院がある上に、病気になりがちで、学校を休む時は母親も仕事を休むこととなります。そのことに理解のある職場は、まだまだ少数です。
- ・きょうだいがいる場合、同じように愛情を注いで育てたつもりでも、健康なきょうだいになにかしらの課題が出て来ると「期待をかけすぎたのでは？」という周囲の言葉に深く傷つきます。
- ・成人してからも重度の障害者は、体調悪くして施設を休むことも多く、母親が仕事を休んで介護することとなります。

- ・子どもが小さな時は、親が同居だったり、近所だったりすると手伝いをしてもらいますが、親も高齢になると病気になり、通院の付き添いや介護が必要になることも多いです。母親（嫁、娘）は、ダブルケアの始まりです。
- ・私たち親の会では、子どもが小さいうちから一緒に活動しているので、子どもの特性や家族構成などを把握しており、困った時に助け合うことができます。
- ・近くに親や親戚がいない人も多く、親の会の仲間は頼りになる存在です。
- ・すぐには解決出来ないことでも話を聞いてもらおうと「うちもそうだった」「私も同じ気持ちだった」と次第に心が晴れていきます。子どものこと、家族のこと、自分の体調のこと、話は尽きません。
- ・若い世代のお母さんは、先輩との付き合いを煩わしく思う方も多いようです。福祉サービスにはすぐに繋がっても、人と繋がっていない人が多いような気がします。インターネットの情報は正しいものばかりではありません。身近にある親の会を頼りにしてもらえたらと思います